

中期取組目標実現に向けた「三つのプラン」

学校教育目標

「自分大好き 友だち大好き 共に学ぶ子 実践する子」
○自分の考えをしっかりと、積極的に表現しながら、主体的に学習する子を育てます。(知)
○人に対して優しく思いやりをもって行動し、人の心の痛みのわかる子を育てます。(徳)
○基本的生活習慣を身につけ、健康の保持増進を図ると共に、命あるものを大切にしようとする子を育てます。(体)
○地域の環境や人を大切にし、進んで人のためになる行動の取れる子を育てます。(公)
○いろいろな人とのコミュニケーションを大切にし、よりよい生活について考える子を育てます。(開)

教育課程全体で 育成を目指す資質・能力

Table with 2 columns: 主体的に課題解決する力, コミュニケーション力 and 具体化した資質・能力, 自己肯定感 主体性・積極性, 相手の思いを受け止めて聞く力 伝えることで自分の考えを深める力, 問題を発見する力 試行錯誤する能力

中期取組目標

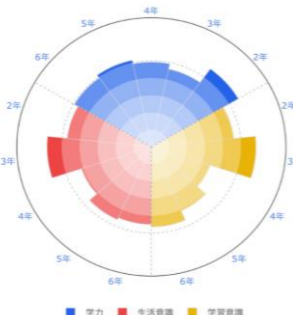
○子ども一人ひとりに向き合い、「ひと」や「まち」との関わりを大切にしたい、活力と魅力あふれる学校づくりを進めます。
・子ども同士の関わり合いと認め合いを育み、新学習指導要領に沿った学習活動を展開します。
・特別支援教育の視点を大切に、問題解決学習型の授業づくりに取り組み、進んで問題を解決していく子どもを育てます。
・家庭・地域・関係機関との連携をより一層強め、子どもの心に自尊感情・自己有用感を高めるように取り組んでいきます。
・楽しみながら学び、健康・体力の向上に寄与する学習の充実を図ります。
・全教職員が互いに学びあい、啓発し合って自らの力を磨いていく学校づくりを進めます。

学力向上アクションプラン

Table with 2 columns: 重点取組分野 (授業改善) and 具体的取組 (①チーム学年経営の仕組みを生かし、児童理解と教材研究の両面を充実する。身に付けたい資質・能力を育むために、単元構成の工夫をして問題意識をもったり、体験を大切にしたい学習の工夫をしたりする。②生活科・総合的な学習の時間の重点研究を通して、好奇心を探究の出発点とし、「課題の設定→情報の収集→整理・分析→まとめ・表現」という問題解決のサイクルを子どもたち自身が回し、学びを創造する姿を目指すようにする。)

学力向上に関わる本校の状況

(1)学力に関わる児童の実態
学力は、横浜市の平均よりわずかに上回っている学年が多い。学力の2極化が見られ、低学力層の児童が年々増えている傾向にある。
しかし、学習意欲や生活意識については、学年が上がるにつれて低下する傾向が見られる。高学年になると学力は高いが、学習を「自分事」と捉える意識が低下している傾向が見られる。学ぶ楽しさを実感する学びが十分でないという課題があると感じる。
(2)これまでの学校の取組状況
昨年は、国語科を通して、児童が主体的に問題を解決する力、自分の考えを表現する力を高めることをねらいとして、校内研究の実践を進めてきた。児童が問題意識をもち主体的に取り組み、見方や考え方をはたらかせて課題を解決できるように、教材教具や学習展開の工夫に取り組んできた。また、3年生以上で教科担任制を取り入れている。教師の専門性を生かす指導により、身に付けたい資質能力を育成できるように授業改善に取り組んでいる。



今年度の目標

身に付けたい力を育む指導
好奇心を探究の出発点とし、子どもたちが学びを創造する授業(総合的な学習の時間)

目標を実現するための具体的行動プラン

Table with 2 rows: 上半期 and 下半期. Each row contains specific action plans for developing learning abilities and inquiry-based learning.

豊かな心の育成推進プラン

Table with 2 columns: 重点取組分野 (人権教育) and 具体的取組 (①「だれもが」「安心して」「豊かに」生活できる学校を目指し、児童会活動を中心に挨拶やよりよい人間関係を構築する活動を行う。②横浜プログラムを積極的に活用しながら、児童理解や児童の実態を把握し、友達の意見を聞き入れる、発表しやすい温かい雰囲気づくりなど、人権を意識した授業づくりを行う。③日々の道徳授業では、自分の在り方を振り返ったり、自ら課題を立てたりすることで、自他を認める心が育つようにする。)

豊かな心に関わる本校の状況

(1)生活意識に関わる児童の実態
令和7年度横浜市学力・学習状況調査の生活意識調査の結果を見ると、市の平均を下回っているものもあったが、全体的にはだんだん向上している。友達に気持ちに共感する項目に関しては、市の平均を上回る学年が多かった。しかし、「自分のことが好き」「自分には良い所がある」「やくそくを守る」項目は市の平均を下回る学年が多かった。また、「学校は安心できる場所」の項目も、平均をやや下回っている。このことから、共感性は高いものの、自己肯定感が低く、自信がもてていないことが分かる。
(2)これまでの学校の取組状況
委員会活動を中心にあいさつ運動やちくちく言葉、ふわふわ言葉など言葉を大切にしたい人間関係を構築する活動を行った。いじめに対する取り組みで、いじめ0委員会を中心にいじめの未然防止について考え、自分にはできないことはないか考える機会を設けた。また、日々の道徳授業では、自他を認める心が育つようになり、人権週間では、テーマに沿った道徳の授業を実施したりするなど、「だれもが」「安心して」「豊かに」生活できる学校づくりを目指してきた。また2回、YPアセスメントを行い、児童理解に努めてきた

今年度の目標

・自分のよさに気づき、自己肯定感を高める
・自他の違いを知り、自他ともに大切にできる心を育てる。

目標を実現するための具体的行動プラン

Table with 2 rows: 上半期 and 下半期. Each row contains specific action plans for social education and character education.

健やかな体の育成プラン

Table with 2 columns: 重点取組分野 (健康教育) and 具体的取組 (①体力向上のため、新体力テストの活用や日常の体育科学習の計画的な実践を継続する。②学校保健委員会では、「睡眠」に着目し、「睡眠が及ぼす心身への影響」「睡眠の質を高めるにはどうしたらよいか」をテーマに、自分の生活を振り返り、自ら意識してよい睡眠をとれるように生活の中で工夫していけるよう取り組む。)

健やかな体に関わる本校の状況

(1)健やかな体に関わる児童の実態
体力・運動能力調査では、学年によってばらつきがみられた。全体的に、長座体前屈とボール投げの結果は高く、柔軟性と投げられる能力は高いことが分かった。反復横跳びの結果は低く、すばやく動作を繰り返す能力が低いことが分かった。
生活実態調査の結果は、全体的に市の平均より下回っている傾向にあり、学年によってもばらつきが見られた。朝食をとる習慣、睡眠時間や運動時間については課題が見られた。
(2)これまでの学校の取組状況
規範意識の醸成や生活環境の改善に努めている。しかしながら、保健室の利用では怪我が多く見られ、中には大きな事故につながるケースもある。学校のルールを児童支援専任のもと全体で共通理解を図り守るよう取り組んでいく。また、児童の心のケアも同様に必要とされ、児童や保護者との相談、SCなど関係機関との協力や連携を積極的にしている。

今年度の目標

・心と体の健康を管理し、自ら保持増進する力を養う
・自分の心と体を大切にできる気持ちを育む

目標を実現するための具体的行動プラン

Table with 2 rows: 上半期 and 下半期. Each row contains specific action plans for physical education and health management.

